

日本原子力学会 標準委員会 発電炉専門部会
確率論的安全評価（レベル1及びレベル2）分科会
第15回 レベル2PSA作業会 議事要旨

日時：平成17年5月23日（月） 13:30～17:30

場所：原子力安全基盤機構 第11C会議室

出席者：

委員 梶本，住田，立岩，石川，加藤，倉本，谷川，濱崎，佐藤（久持代理），山越 10名

（欠席 大野，大橋，日高）

常時参加者 荻野，川端，舟山

配布資料：

P4WG15-1 第14回作業会議事要旨（案）

P4WG15-2 レベル2PSA標準・解説（案）

P4WG15-3 格納容器機能喪失シナリオの分析

P4WG15-4 委員コメント

議事概要

議事に先立ち、主査より委員10名が出席しており、本会議が決議に必要な定足数を満たしていることが報告された。

1) 前回議事要旨確認（P4WG15-1）

特にコメントなく承認された。

2) 人事

主査より黒田委員が退任するとの報告、及び大橋氏（経済産業省）を委員にするとの提案があった。挙手により、全員一致で大橋氏を委員に選任した。

3) 今後のスケジュール

主査より、今後のスケジュールについて紹介があった。レベル2PSA標準は6/2の発電炉部会で中間報告、7月の発電炉部会で最終報告、その後の標準委員会で決議投票後、パブコメにかけるとのこと。作業会は7月の発電炉部会までに、後2、3回開催予定。

4) 格納容器機能喪失シナリオの分析(P4WG15-3)

地震PSA分科会事故シーケンス評価作業会からコメント依頼のあった本資料について議論を行った。

- 「格納容器破損頻度の評価は、レベル2PSA標準に準拠して実施できるので、本章では言及しない。」としているが、これでは内的事象PSA標準をベースとして地震PSA標準はその足りない部分を追加するという位置づけになる。むしろ、地震PSA標準をベースとした記載にして、内的事象PSAを参照できる部分については参照するという記載にするほうが良いのではないかなどのコメントがあった。

5) レベル2PSA標準（案）および解説（P4WG15-2, 4）

本文および解説について、各委員から事前送付されたコメントも踏まえて主に以下の議論があった。

- 「12章文書化」については、レベル1PSA標準の記載に合わせ、原案の内容を本文と解説に分けて記載する。
- 本文には、要求事項を満たしていることを示すエビデンスを文書化する、という記載にする。
- 解説にどこまで詳細な資料を文書化すべきと書くかが難しい。全てを要求すると、NUREG-1150のようにファイルが膨大になりかねない。報告書として国に提出する場合にはどこまでにするか、という規定も必要かも知れない。
- 報告書として何を載せるかについては、本標準で規定する必要はないと考える。アカウントビリティの確保が要求事項として定められていればよい。
- 重要度解析については、レベル1では「10章 事故シーケンスの定量化」で規定しているが、レベル2ではどこに記載すべきか。

==>8.3 格納容器破損頻度の解析の1項として、追記する。

- ソースタームの重要度解析は実績がなく、またどのように評価すべきか記載するのが困難。

==>格納容器破損頻度についてのみ、必要に応じて重要度解析を実施する記載とする。

- 不確かさ解析については、必要に応じてとすることはできないのか。

==>性能目標で要求されているので、平均値と不確かさ幅の評価は必須。

- ・ ヘディング項目や図面（解説図8.1、8.2）の記号は可能な限り日本語に直すか、注記をそれぞれ付ける。

3) 今後の予定

第16回作業会：6月15日（水）13：30～17：00

以上